

令和5年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

3年 普通科



香川県立高松南高等学校

はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

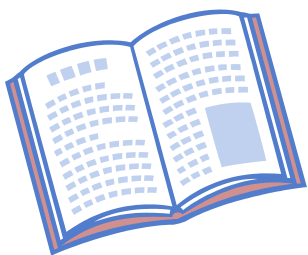
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

普通科 コース制

第2学年から、自分の進路・適性にあわせて、コースを選択します。

- ①文理コース(文系) 英語、国語、地理歴史を重点的に、各教科バランスよく学習します。
国公立大学の文学・外国語・法学・経済・社会学部などへの進学に対応しています。
- ②文理コース(理系) 数学、理科を重点的に、各教科バランスよく学習します。
国公立大学の理学・工学・薬学・農学部などへの進学に対応しています。
- ③総合(文系)コース 英語、国語、地理歴史を重点的に学習し、
私立大学の文学・外国語・経済・福祉・家政・芸術・体育学部などへの進学や、
短期大学、各種専門学校への進学に対応しています。
- ④総合(理系)コース 数学、理科を重点的に学習し、
私立大学の理学・工学・農学部などへの推薦入試での進学や、短期大学、各種
専門学校への進学に対応しています。
特に、医療系への進学を考えている者に対応しています。
- ⑤情報ビジネスコース 商業科目の簿記・情報処理などを重点的に学習し、各種検定試験に挑戦します。
経済・商学部系の大学や、情報ビジネス系の専門学校への進学、また、
一般企業への就職(事務職、販売職、サービス職等)に対応しています。

①文理コース(文系)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
1年	国語総合		現代社会		数学Ⅰ		数学Ⅱ		化学基礎		体育		保健		芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ		英語表現Ⅰ		家庭基礎		社会と情報		総合		LHR							
2年	現代文B		古典B		世界史B		日本史B		地理B		数学Ⅱ		数学B		生物基礎		地学基礎		体育		保健		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅱ		総合		LHR					
3年	現代文B		古典B		世界史B		日本史B		地理B		日A・地A		政治・経済		数学Ⅱ		数学B		化学基礎		生物基礎		体育		コミュニケーション英語Ⅲ		英語表現Ⅱ		総合		LHR			

- ◆ 2年で世界史Bを選択した者は、3年では日本史A・地理Aより1科目を選択し、2年で日本史Bまたは地理Bを選択した者は、3年では世界史Aを選択する。
- ◆ 地理歴史において、B科目は2年3年継続履修する。

②文理コース(理系)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
1年	国語総合		現代社会		数学Ⅰ		数学Ⅱ		化学基礎		体育		保健		芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ		英語表現Ⅰ		家庭基礎		社会と情報		総合		LHR							
2年	現代文B		古典B		世界史B		日本史B		地理B		数学Ⅱ		数学Ⅲ		物理基礎		生物基礎		化学		体育		保健		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅱ		総合		LHR			
3年	現代文B		古典B		世界史B		日本史B		地理B		日A・地A		政治・経済		数学Ⅲ		物理		生物		化学		体育		コミュニケーション英語Ⅲ		英語表現Ⅱ		総合		LHR			

- ◆ 2年で世界史Bを選択した者は、3年では日本史A・地理Aより1科目を選択し、2年で日本史Bまたは地理Bを選択した者は、3年では世界史Aを選択する。
- ◆ 地理歴史において、B科目は2年3年継続履修する。
- ◆ 3年で物理または生物を選択する。

③総合コース(文系)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
1年	国語総合				現代社会		数学Ⅰ			数学A		化学基礎		体育			保健	芸術Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ			英語表現Ⅰ		家庭基礎		社会と情報		総合	L	H	R
2年	現代文B			古典B		世界史B 日本史B 地理B		数学Ⅱ				科学と人間生活		生物基礎		体育			保健	芸術Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ			英語表現Ⅱ		総合	L	H	R		
3年	国語表現		現代文B		古典B		世界史B 日本史B 地理B		日A・地A 世A		政治・経済			数学Ⅱ		生物基礎		体育		芸術Ⅲ		コミュニケーション英語Ⅲ			英語表現Ⅱ		総合	L	H	R	

- ◆ 2年で世界史Bを選択した者は、3年では日本史A・地理Aより1科目を選択し、2年で日本史Bまたは地理Bを選択した者は、3年では世界史Aを選択する。
- ◆ 地理歴史において、B科目は2年3年継続履修する。
- ◆ 2年の芸術科Ⅱの科目は、1年で履修したⅠ科目と同じ科目とする。
また、3年の芸術科Ⅲの科目は、1年2年で継続履修したⅠ及びⅡ科目と同じ科目とする。

④総合コース(理系)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	国語総合				現代 社会		数学Ⅰ			数学 A		化学 基礎		体育		保健	芸術Ⅰ		コミュニケーション 英語Ⅰ			英語 表現Ⅰ		家庭 基礎		社会と 情報		総合	L H R	
2年	現代文B			古典B		世界史B 日本史B 地 理B		数学Ⅱ						物理 基礎		生物 基礎		化学			体育		保健	コミュニケーション 英語Ⅱ			総合	L H R		
3年	現代 文B		古典B		世界史B 日本史B 地 理B		日A・地A 世A		数学Ⅱ			数学B			物理 ----- 生物			化学			体育		コミュニケーション 英語Ⅲ			総合	L H R			

- ◆ 2年で世界史Bを選択した者は、3年では日本史A・地理Aより1科目を選択し、2年で日本史Bまたは地理Bを選択した者は、3年では世界史Aを選択する。
- ◆ 地理歴史において、B科目は2年3年継続履修する。
- ◆ 3年で物理または生物を選択する。

⑤(情報ビジネスコース)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	国語総合				現代社会		数学Ⅰ			数学A		化学基礎		体育			保健	芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ			英語表現Ⅰ		家庭基礎		社会と情報		総合	L H R
2年	現代文B			世界史B 日本史B 地理B		数学Ⅱ		科学と人間生活		体育			保健	コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅱ		ビジネス基礎		ビジネス実務		簿記			情報処理		総合	L H R		
3年	国語表現		現代文B		世界史B 日本史B 地理B		日A・地A 世A		数学Ⅱ		体育		コミュニケーション英語Ⅱ		英語表現Ⅱ		課題研究			ビジネス実務		マーケティング		原価計算		情報処理		総合	L H R	

- ◆ 2年で世界史Bを選択した者は、3年では日本史A・地理Aより1科目を選択し、2年で日本史Bまたは地理Bを選択した者は、3年では世界史Aを選択する。
- ◆ 地理歴史において、B科目は2年3年継続履修する。

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
国語	国語表現	2	3年	普通科（総合文コース）	全員

学習目標	国語を適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。
授業計画	1学期 1, 書いて伝える 2, 小論文・レポート入門 3, 自己PRと面接 2学期 4, メディアを駆使する 5, 声とコミュニケーション 3学期 6, 会話・議論・発表
学習方法と アドバイス	・授業に積極的に参加し、自分の考えを進んで発表する。 ・的確な表現をするために、辞書を活用する。 ・ノートの取り方を工夫して、学習効果を高める。 ・副教材を用いて、漢字・語句・語法の演習問題を解く。 ・様々な場に表現の機会を持つようにする。
評価の観点と 方法	「国語表現」では以下の5つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】積極的に授業に参加し、不明な箇所や興味のある内容を進んで調べたり、積極的な読書を通して自分の意見を表現できているか。 【話す・聞く能力】自分の考えをまとめ、相手に正確に伝えたり、相手の話を的確に聞き取ることができているか。 【書く能力】自分の考えを適切な表現を用いて表現できているか。 【読む能力】文章を正確に読みとることができているか。 【知識・理解】漢字・語句や文法等を理解し、適切に使用できているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、小テスト、出席状況 等により総合的に評価します。
使用教材	教科書 「国語表現 改訂版」大修館書店 副教材 「国語表現 基礎練習ノート」大修館書店

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
国語	国語表現	2	3年	普通科(情報ビジネスコース)	全員

学習目標	国語を適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。
授業計画	1学期 1, 書いて伝える 2, 小論文・レポート入門 3, 自己PRと面接 2学期 4, メディアを駆使する 5, 声とコミュニケーション 3学期 6, 会話・議論・発表
学習方法とアドバイス	・授業に積極的に参加し、自分の考えを進んで発表する。 ・的確な表現をするために、辞書を活用する。 ・ノートの取り方を工夫して、学習効果を高める。 ・副教材を用いて、漢字・語句・語法の演習問題を解く。 ・様々な場に表現の機会を持つようにする。
評価の観点と方法	「国語表現」では以下の5つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】積極的に授業に参加し、不明な箇所や興味のある内容を進んで調べたり、積極的な読書を通して自分の意見を表現できているか。 【話す・聞く能力】自分の考えをまとめ、相手に正確に伝えたり、相手の話を的確に聞き取ることができているか。 【書く能力】自分の考えを適切な表現を用いて表現できているか。 【読む能力】文章を正確に読みとることができているか。 【知識・理解】漢字・語句や文法等を理解し、適切に使用できているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、小テスト、出席状況 等により総合的に評価します。
使用教材	教科書 「国語表現 改訂版」大修館書店 副教材 「国語表現 基礎練習ノート」大修館書店

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
国語	現代文B	3	3年	普通科（文理コース）	全員

学習目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
授業計画	1学期 ・随筆「ワスレナグサ」等・小説「話を聞かせて」等・評論「記憶のゆがみ」等 2学期 ・詩「食事」等・小説「山月記」等・評論「鏡としての他者」等 3学期 ・小説「卒業」等・短歌と俳句「折々のうた」				
学習方法とアドバイス	予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。 授業を大切にして積極的に参加し、自ら課題を見つけ、自分の考えをまとめて発表する。 辞書を引くことや音読・朗読を習慣化する。 復習やテスト前の学習に役立つように丁寧なノート作りをする。 提出物を丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。 新聞を読むことを習慣化するなど、日常生活の中に、読む・書く・話す・聞くを積極的に取り入れる。				
評価の観点と方法	「現代文B」では以下の5つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしているか。 【話す・聞く能力】目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させているか。 【書く能力】必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させているか。 【読む能力】近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているか。 【知識・理解】言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、小テスト（漢字、暗誦等）、作文・読書感想文・スピーチ、出席状況 等により総合的に評価します。				
使用教材	教科書 「改訂版 現代文B」 第一学習社 副教材 「新版五訂カラー版新国語便覧」 第一学習社 「高校生必修語彙ノート」 桐原書店 「漢字の学習」 香川県高等学校国語教育研究会 「国語常識の総演習」 京都書房 「新演習現代文アチーブ3」 桐原書店				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
国語	現代文B	2	3年	普通科 (総合コース・情報ビジネスコース)	全員

学習目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
授業計画	1学期 ・小説「話を聞かせて」等・評論「記憶のゆがみ」等 2学期 ・詩「食事」等・小説「山月記」等・ 3学期 ・小説「卒業」等・短歌と俳句「折々のうた」
学習方法と アドバイス	予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。 授業を大切に積極的に参加し、自ら課題を見つけ、自分の考えをまとめて発表する。 辞書を引くことや音読・朗読を習慣化する。 復習やテスト前の学習に役立つように丁寧なノート作りをする。 提出物を丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。 新聞を読むことを習慣化するなど、日常生活の中に、読む・書く・話す・聞くを積極的に取り入れる。
評価の観点と 方法	「現代文B」では以下の5つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしているか。 【話す・聞く能力】目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させているか。 【書く能力】必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させているか。 【読む能力】近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているか。 【知識・理解】言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、小テスト（漢字、暗誦等）、作文・読書感想文・スピーチ、出席状況 等により総合的に評価します。
使用教材	教科書 「改訂版 現代文B」 第一学習社 副教材 「新版五訂カラー版新国語便覧」 第一学習社 「国語常識の総演習」 京都書房 「漢字の学習」 香川県高等学校国語教育研究会 「新演習現代文アチーブ2」 桐原書店

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
国語	古典B	3	3年	普通科（文理コース）	全員

学習目標	古典としての古文と漢文を読む力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。				
授業計画	1学期 古文 説話「宇治拾遺物語」等・随筆「枕草子」・歴史物語「大鏡」 漢文 逸話「不死之薬」等・詩文「石壕吏」等 2学期 古文 日記「紫式部日記」等・物語「源氏物語」・俳諧「去来抄」等 漢文 物語「水魚の交わり」等・道家・法家の思想 3学期 古文 物語「雨月物語」等 漢文 物語「枕中記」等				
学習方法と アドバイス	・ 予習として、本文を3行おきにノートに書き写し、現代語訳や文法事項が書き込めるようにしておき、授業を大切に、積極的に参加する。 ・ 復習やテスト前の学習に役立つように、ていねいなノート作りをする。 ・ 辞書を引くことを習慣化する。 ・ 古典文法を学習する。 ・ 提出物をていねいに仕上げて、期限を守って提出する。				
評価の観点と 方法	「古典」では以下の5つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深めているか。 【話す・聞く能力】目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり話し合ったりして自分の考えをまとめ、深めているか。 【書く能力】相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているか。 【読む能力】文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えをまとめ深めているか。 【知識・理解】伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、小テスト（語句・古典文法・暗誦等）、作文・感想文、出席状況等により、総合的に評価する。				
使用教材	教科書「新編 古典B」（大修館書店） 副教材「新版五訂カラー版新国語便覧」（第一学習社）「解析古典文法」（第一学習社） 「精選漢文」（尚文出版）「古典単語 325」（尚文出版）				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
国語	古典B	2	3年	普通科（総合コース）	全員

学習目標	古典としての古文と漢文を読む力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。				
授業計画	1学期 古文 説話「宇治拾遺物語」・随筆「枕草子」・歴史物語「大鏡」 漢文 逸話「不死之薬」・詩文「石壕吏」等 2学期 古文 日記「紫式部日記」・物語「源氏物語」・俳諧「発句でたどる『奥の細道』」 漢文 物語「水魚の交わり」・道家・法家の思想 3学期 古文 物語「雨月物語」 漢文 物語「枕中記」				
学習方法と アドバイス	・ 予習として、本文を3行おきにノートに書き写し、現代語訳や文法事項が書き込めるようにしておき、授業を大切に、積極的に参加する。 ・ 復習やテスト前の学習に役立つように、ていねいなノート作りをする。 ・ 辞書を引くことを習慣化する。 ・ 古典文法を学習する。 ・ 提出物をていねいに仕上げて、期限を守って提出する。				
評価の観点と 方法	「古典」では以下の5つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深めているか。 【話す・聞く能力】目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり話し合ったりして自分の考えをまとめ、深めているか。 【書く能力】相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているか。 【読む能力】文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えをまとめ深めているか。 【知識・理解】伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、小テスト（語句・古典文法・暗誦等）、作文・感想文、出席状況等により、総合的に評価する。				
使用教材	教科書「新編 古典B」（大修館書店） 副教材「新版五訂カラー版新国語便覧」（第一学習社）「古典文法クリアノート」（尚文出版）				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
地理歴史	世界史A	2	3年	普通科 (文理・総合・情報ビジネスコース)	選択

学習目標	古代文明の学習をきっかけにして世界史に興味・関心を持ち、大航海時代を契機に世界が一体化していくことを理解する。近現代史では、人権や自由が尊重される市民社会がいかにして形成されたかを学ぶとともに、欧米列強による植民地支配の実態と影響について考察する。また、二つの世界大戦の学習を通して、過去の失敗から学んだ教訓や財産を未来に生かすことで、歴史教育の意義を理解する。そして、異文化理解の重要性を認識し、主体的に世界平和に寄与する態度を養う。
授業計画	1学期 前近代の諸文明（東アジア、西アジア、ヨーロッパの文明など） 大航海時代の始まり アジア・アメリカへと進出するヨーロッパ 2学期 ヨーロッパとアメリカの諸革命 自由主義・ナショナリズムの進展 世界を分割する帝国主義 第一次大戦がもたらしたもの 3学期 経済危機から第二次世界大戦へ 冷たい戦争の時代 地球社会への歩み
学習方法と アドバイス	授業では、教科書・ノート・図説を活用して積極的に活動し、分からないところを質問し、歴史上の事件や人物について自分の考えを発表する。 復習やテスト前の学習に役立つように、丁寧なノート作りを心がける。 各自でテーマを設定し、図書館やタブレット端末等で調べたことをまとめ発表する。 ノートやプリントなどの提出物を、期限を守って提出する。 新聞やテレビのニュースに常に注意し、授業で学んだ事柄との関連を考える。
評価の観点と 方法	【関心・意欲・態度】世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しているか。 【思考・判断・表現】世界史の事象から課題を見だし、その歴史的意義を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、公正に判断して適切に表現しているか。 【資料活用の技能】世界史に関する資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用しているか。 【知識・理解】世界が形成される過程や歴史事象を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みの姿勢、ノートやレポートの提出状況などで総合的に評価する。
使用教材	教科書 「明解 世界史A」 帝国書院 副読本 「ニューステージ 世界史詳覧」 浜島書店

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
地理歴史	世界史B	3	3年	普通科 (文理・総合・情報ビジネスコース)	選択

学習目標	2年次での古代から中世までの学習をふまえ、3年では、近代の歴史に関して、何らかの自立性と体系性を持つ複数の地域世界に着目し、その形成、交流と再編、結合と変容の過程を把握する。また、現代においては、諸国家、諸民族が直面する様々な課題について理解する。以上の学習活動を通して、歴史的思考力を培い、広い視野に立ち、国際社会を主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
授業計画	1学期 近世ヨーロッパ世界の形成 近世ヨーロッパ世界の展開 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 2学期 欧米における近代国民国家の発展 アジア諸地域の動揺 帝国主義とアジアの民族運動 二つの世界大戦 3学期 冷戦と第三世界の成立 現在の世界
学習方法と アドバイス	授業では、教科書・ノート・図説を活用して積極的に活動し、分からないところを質問し、歴史上の事件や人物について自分の考えを発表する。 復習やテスト前の学習に役立つように、丁寧なノート作りを心がける。 各自でテーマを設定し、図書館やタブレット端末等で調べたことをまとめ発表する。 ノートやプリントなどの提出物を、期限を守って提出する。 新聞やテレビのニュースに常に注意し、授業で学んだ事柄との関連を考える。
評価の観点と 方法	【関心・意欲・態度】世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しているか。 【思考・判断・表現】世界史の事象から課題を見いだし、その歴史的意義を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、公正に判断して適切に表現しているか。 【資料活用の技能】世界史に関する資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用しているか。 【知識・理解】世界が形成される過程や歴史事象を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みの姿勢、ノートやレポートの提出状況などで総合的に評価する。
使用教材	教科書 「詳説世界史 改訂版」 山川出版社 副読本 「ニューステージ 世界史詳覧」 浜島書店 「要点整理ゼミナール世界史」 浜島書店

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
地理歴史	日本史A	2	3年	普通科 (文理・総合・情報ビジネスコース)	選択

学習目標	1 世界史と関連付けながら、我が国の近現代史を理解する。 2 身近な生活文化や地域社会の変化などに関わるテーマを設定し、追求することによって、歴史的な見方や考え方を身につける。 3 資料を活用し、課題を解決する能力を身につける。
授業計画	1学期 歴史を考察する方法 大日本帝国の誕生《幕末～明治》から、明治政府の外交政策を学習 大日本帝国の展開《大正～第二次世界大戦》 2学期 日本国憲法と戦後の世界《戦後～平成》 3学期 大日本帝国の誕生《幕末～明治》から、1学期の内容以外を学習 ※テーマ学習（衣食住の変化、交通・通信の変化、風習と民間信仰、産業技術の発達と生活、地域社会の変化などからテーマを選び、調べ学習・発表）を、各学期の学習内容に合わせて随時取り入れる
学習方法と アドバイス	授業に積極的に参加し、「なぜ」「どうして」そのような歴史的な事象がおこったかを考える。 復習に役立つようなノートづくりを心がける。 疑問に思ったことや課題を、資料を利用して調べ、まとめ、発表する。 提出物を、わかりやすく丁寧にまとめて、期限を守って提出する。 本やテレビ、近隣の資料館、民俗行事など、身近にあるもののなかで、歴史にふれ、関心をもつ。
評価の観点と 方法	「日本史A」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】日本の歴史に対して関心を持ち、授業に意欲的に取り組めたか。 【思考・判断・表現】日本の歴史の展開から課題を見出し、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察して、その過程や結果を適切に表現できたか。 【資料活用の技能】日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、情報を適切に選択して、読み取ることができたか。 【知識・理解】日本の歴史についての基本的な事柄を総合的に理解し、その知識を身につけることができたか。
使用教材	教科書『高校学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来』第一学習社 副教材『詳説 日本史図録 第8版』山川出版社

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
地理歴史	日本史B	3	3年	普通科 (文理・総合・情報ビジネスコース)	選択

学習目標	1. 歴史を考察する基本的な方法を理解する。 2. 歴史への関心をたかめ、歴史的な見方や考え方を身につける。 3. 近代の政治・社会・文化の発達・進展を、世界各国の動向とも関連付けて総合的にとらえる。
授業計画	1学期 近代国家の成立 開国と幕末の動乱・明治維新・立憲国家の成立・大陸政策の進展・近代産業の発展 2学期 二つの世界大戦とアジア 第一次世界大戦と日本・ワシントン体制・恐慌の時代・軍部の台頭・第二次世界大戦 3学期 占領下の日本 占領と改革・冷戦の開始と講和
学習方法と アドバイス	授業に積極的に参加し、「なぜ」「どうして」そのような歴史的な事象がおこったかを考える。 復習に役立つようなノートづくりを心がける。 疑問に思ったことを本やインターネットを利用して調べる。 提出物を、わかりやすく丁寧にまとめて、期限を守って提出する。 本やテレビ、近隣の資料館、民俗行事など、身近にあるもののなかで、歴史にふれ、関心をもつ。
評価の観点と 方法	「日本史B」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】日本の歴史に対して関心を持ち、授業に意欲的に取り組めたか。 【思考・判断・表現】日本の歴史の展開から課題を見出し、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察して、その過程や結果を適切に表現できたか。 【資料活用の技能】日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、情報を適切に選択して、読み取ることができたか。 【知識・理解】日本の歴史についての基本的な事柄を総合的に理解し、その知識を身につけることができたか。
使用教材	教科書『詳説日本史』山川出版社 副教材『詳説 日本史図録 第8版』山川出版社

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
地理歴史	地理A	2	3年	普通科 (文理・総合・情報ビジネスコース)	選択

学習目標	現代世界の地理的諸課題を、地域性を踏まえて考察する事によって地理的認識を養う。 さらに、地理的な見方や考え方を身に付けることによって、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
授業計画	1学期 ・地球儀や地図からとらえる現代社会 ・人間生活を取り巻く環境 2学期 ・世界の諸地域の生活・文化 ・地球的課題と私たち 3学期 ・身近な地域の課題
学習方法と アドバイス	・授業を大切にし、板書された事柄だけでなく、先生のアドバイスもノートする習慣をつける。 ・普段から地図帳に目を通し、的確な世界地図を思い描けるようにしておく。 ・普段から新聞等に目を通し、国際社会の動向を的確につかんでおく。 ・問題演習を通して、資料から論理的に考察する習慣を身につける。 ・自ら課題を見つけ、自分の考えをまとめ、発表できるようにする。
評価の観点と 方法	「地理A」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】現代世界のさまざまな地理的事象について、関心を高めることができたか。意欲的に学習課題を追求し、作業等に取り組むことができたか。 【思考・判断・表現】現代世界の地理的事象から課題を見つけ出し、地域性を踏まえて多面的・多角的に考察し自分の考えを論述できているか。 【資料活用の技能】地図や統計資料など地域に関するデータを収集し、それを適切に取捨選択しているか。また、選択したデータを加工し、適切に表現できているか。 【知識・理解】現代世界の地理的な諸課題について基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートなどの提出状況、出席状況 等を総合的に判断して評価します。
使用教材	教科書：「高等学校 新地理A」帝国書院 地図帳：「標準高等地図」帝国書院 副教材：「高等学校 新地理Aノート」帝国書院

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
地理歴史	地理B	3	3年	普通科 (文理・総合・情報ビジネスコース)	選択

学習目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察する事によって地理的認識を養う。 また、地理手的な見方や考え方を培うことによって、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
授業計画	1学期 3章 人口、村落・都市 4章 生活文化、民族・宗教 2学期 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 3学期 3章 現代世界と日本
学習方法とアドバイス	・授業を大切にし、板書された事柄だけでなく、先生のアドバイスもノートする習慣をつける。 ・普段から地図帳に目を通し、的確な世界地図を思い描けるようにしておく。 ・普段から新聞等に目を通し、国際社会の動向を的確につかんでおく。 ・問題演習を通して、資料から論理的に考察する習慣を身につける。 ・自ら課題を見つけ、自分の考えをまとめ、発表できるようにする。
評価の観点と方法	「地理B」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】現代世界のさまざまな地理的事象について、関心を高めることができたか。意欲的に学習課題を追求し、作業等に取り組むことができたか。 【思考・判断・表現】現代世界の地理的事象から課題を見つけ出し、地域性を踏まえて多面的・多角的に考察し自分の考えを論述できているか。 【資料活用の技能】地図や統計資料など地域に関するデータを収集し、それを適切に取捨選択しているか。また、選択したデータを加工し、適切に表現できているか。 【知識・理解】現代世界の地理的な諸課題について基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートなどの提出状況、出席状況 等を総合的に判断して評価します。
使用教材	教科書：「新詳地理B」（帝国書院） 地図帳：「新詳高等地図」（帝国書院） 副教材：「地理 統計要覧 2020年版」（二宮書店）

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教 科 名	科 目	単位数	対象学年	対 象 生 徒	区 分
公 民	政治・経済	3	3 年	普通科（文理・総合コース）	選択

学習目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察し、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
授業計画	1 学期 第 1 編 現代の政治 民主政治の基本原則と日本国憲法／現代の国際政治と日本①～③ 2 学期 第 1 編 現代の政治 現代の国際政治と日本④～⑥ 第 2 編 現代の経済 現代経済のしくみと特質 3 学期 第 2 編 現代の経済 国民経済と国際経済 第 3 編 現代社会の諸問題 現代日本の政治や経済の諸課題／国際社会の政治や経済の諸課題				
学習方法と アドバイス	・ 予習として、教科書をあらかじめ読んでから、その日の授業に臨むことを習慣づける。 ・ 授業を最大限大切に、授業中は集中して講義に耳を傾ける。また、黒板に書かれたことを中心に、丁寧なノート作りに励む。また、提出物の指示があった場合派、期限を守って必ず提出する。 ・ 3 学期の課題追求学習は、自ら課題を見つけ、自分の考えをまとめることになるので、1 学期・2 学期の授業中に学ぶことから、自分が興味・関心をもつ項目を見つけておかなければならない。 ・ 考査前には、教科書を丁寧に繰り返し読み返しながら、ノートにも目を通しておく。 ・ 常日ごろから、分からないことや疑問に思ったことについて、積極的に質問したり自ら調べたりして、主体的に考察する態度を身に付けていく。 ・ 毎日、新聞を読むことを習慣化し、日常生活のなかで、現代における政治・経済・国際関係などについての関心を持つ態度を育てていく。				
評価の観点と 方法	「政治・経済」では以下の 4 つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】 現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、民主的・平和的なよりよい社会の実現にむけて参加、協力する態度を身につけ人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとしたか。 【思考・判断・表現】 現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的現象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現できるか。 【資料活用・技能】 現代社会の基本的問題や人間に関わる事項に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し有用な情報を適切に選択して効果的に活用しているか。 【知識・理解】 現代の諸問題と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身につけているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みと態度、ノートなどの提出物などを総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書：『高等学校 改訂版 政治・経済』 第一学習社 副読本：『最新 政治・経済資料集 2021』 第一学習社				

考 査	学 習 計 画	反 省
1 学期中間		
1 学期期末		
2 学期中間		
2 学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
数学	数学Ⅱ	3	3年	普通科 文理(文系)コース	全員

学習目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を身に付ける。				
授業計画	1学期 第6章 微分法と積分法 第1章 式と証明の問題演習 2学期 第2章 複素数と方程式の問題演習 第3章 図形と方程式の問題演習 第4章 三角関数の問題演習 第5章 指数関数と対数関数の問題演習 3学期 第6章 微分法と積分法の問題演習				
学習方法とアドバイス	・予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。 ・授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。 ・復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。				
評価の観点と方法	○評価の観点 【関心・意欲・態度】 数学の理論や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているか。 【数学的な見方や考え方】 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 【数学的な技能】 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。 【知識・理解】 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けているか。 ○評価方法 ・定期考査、小テストなどで、4つの評価観点を評価する。 ・ノート提出、出席状況、授業への取り組みなど、4つの評価観点を評価する。				
使用教材	教科書 改訂版 新編 数学Ⅱ (数研出版) 副教材 改訂版 3TRIAL 数学Ⅱ (数研出版) 副教材 三訂版 ベイシックスタイル数学演習 I・A+Ⅱ・B (数研出版)				

考 査		目 標 ・ ポイント	
1学期	中間		
	期末		
2学期	中間		
	期末		
学年末			

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
数学	数学Ⅱ	2	3年	普通科 総合(文系)コース	全員

学習目標	指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を養うとともに、それらを活用する態度を身に付ける。
授業計画	1学期 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数 2学期 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法 3学期 問題演習
学習方法とアドバイス	・予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。 ・授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問したり、休み時間・放課後などを利用して先生に質問したりして早めに解決する。 ・復習 教科書や問題集の基本問題を自力で解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、発展問題にもチャレンジする。
評価の観点と方法	○評価の観点 【関心・意欲・態度】 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、事象の考察に積極的に活用しようとしているか。 【数学的な見方や考え方】 事象を数学的に考察し表現したり、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けようとしているか。 【数学的な技能】 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。 【知識・理解】 基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けているか。 ○評価方法 ・定期考査、小テストなどで、4つの評価観点を評価する。 ・ノート提出、出席状況、授業への取り組みなどで、4つの評価観点を評価する。
使用教材	教科書 改訂版 新編 数学Ⅱ (数研出版) 副教材 改訂版 3 T R I A L 数学Ⅱ (数研出版)

考 査		目 標 ・ ポイント	
1学期	中間		
	期末		
2学期	中間		
	期末		
学年末			

教 科 名	科 目	単位数	対象学年	対 象 生 徒	区 分
数学	数学Ⅱ	3	3 年	普通科 総合(理系)コース	全員

学習目標	いろいろな関数および微分・積分について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を培う。				
授業計画	1 学期 第 6 章 積分法 問題演習 2 学期 問題演習 3 学期 問題演習				
学習方法と アドバイス	・ 予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。 ・ 授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。 ・ 復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。				
評価の観点と 方法	○評価の観点 【関心・意欲・態度】 社会生活において数学が果たしている役割に興味・関心をもつとともに、事象を数学的に考察しようとしているか。 【数学的な見方や考え方】 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返ったりすることを通して、数学的な考え方を身に付けようとしているか。 【数学的な技能】 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。 【知識・理解】 基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けているか。 ○評価方法 ・ 定期考査、小テストなどで、上の評価の観点进行评估する。 ・ ノート提出、出席状況、授業への取り組みなどでも、上の評価の観点进行评估する。				
使用教材	教科書 改訂版 新編 数学Ⅱ 数研出版 副教材 改訂版 3TRIAL 数学Ⅱ 数研出版 副教材 三訂版 ベイシックスタイル数学演習 I・A+II・B 数研出版				

考 査		目 標 ・ ポイント	
1 学期	中間		
	期末		
2 学期	中間		
	期末		
学年末			

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
数学	数学Ⅲ α	4	3年	普通科 文理(理系)コース	全員 選択

学習目標	極限、微分法と積分法について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。				
授業計画	1学期 第4章 極限 第5章 微分法 2学期 第6章 微分法の実用 第7章 積分法とその応用 問題演習 3学期 問題演習				
学習方法と アドバイス	・予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。 ・授業 積極的な態度臨み、ノートをきちんととるようにする。疑問点については、授業中に質問するなど、休み時間などを利用して早めに解決する。 ・復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。				
評価の観点と 方法	○評価の観点 【関心・意欲・態度】 数学の理論や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているか。 【数学的な見方や考え方】 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 【数学的な技能】 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。 【知識・理解】 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けているか。 ○評価方法 ・定期考査、小テストなどで、4つの評価観点を評価する。 ・ノート提出、出席状況、授業への取り組みなど、4つの評価観点を評価する。				
使用教材	教科書 改訂版「新編 数学Ⅲ」（数研出版） 副教材 改訂版 3 T R I A L 数学Ⅲ数学Ⅲ（数研出版）、 三訂版 ベイシックスタイル数学演習 I・A+Ⅱ・B（数研出版）				

考 査		目 標 ・ ポイント	
1学期	中間		
	期末		
2学期	中間		
	期末		
学年末			

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
数学	数学Ⅲβ	2	3年	普通科 文理（理系）コース	全員

学習目標	複素数平面と平面上の曲線，関数について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。				
授業計画	1 学期	第 1 章	複素数平面		
		第 3 章	関数		
	2 学期	第 2 章	式と曲線		
		問題演習			
	3 学期	問題演習			
学習方法と アドバイス	・ 予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。 ・ 授業 積極的な態度臨み、ノートをきちんととるようにする。疑問点については、授業中に質問するなど、休み時間などを利用して早めに解決する。 ・ 復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。				
評価の観点と 方法	○評価の観点 【関心・意欲・態度】 数学の理論や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているか。 【数学的な見方や考え方】 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 【数学的な技能】 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。 【知識・理解】 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けているか。 ○評価方法 ・ 定期考査、小テストなどで、4つの評価観点を評価する。 ・ ノート提出、出席状況、授業への取り組みなど、4つの評価観点を評価する。				
使用教材	教科書	改訂版 新編	数学Ⅲ	(数研出版)	
	副教材	改訂版 3TRIAL	数学Ⅲ	(数研出版)	
		三訂版ベシックススタイル数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B (数研出版)			

考 査		目 標 ・ ポイント	
1学期	中間		
	期末		
2学期	中間		
	期末		
学年末			

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
数学	数学B	2	3年	普通科 文理(文系)コース	全員

学習目標	数列、ベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
授業計画	1学期 第1章 平面上のベクトル・演習 2学期 第2章 空間のベクトル・演習 第3章 数列・演習 第1節 等差数列と等比数列 3学期 第3章 数列・演習 第2節 いろいろな数列 第3節 数学的帰納法				
学習方法と アドバイス	・予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。 ・授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。 ・復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。				
評価の観点と 方法	○評価の観点 【関心・意欲・態度】 社会生活において数学が果たしている役割に興味・関心を示し、事象を数学的に考察しようとしているか。 【数学的な見方や考え方】 さまざまな事象を数学的にとらえ、それらを論理的に追究し、解明しようとしているか。 【数学的な技能】 適切な記号や用語、グラフや図を用いて、論理が展開できているかどうか。 【知識・理解】 基本的な記号・用語・定理などを理解し、それらを使って推論が論理的に展開できるかどうか。 ○評価方法 ・定期考査、小テストなどで、4つの評価観点を評価する。 ・ノート提出、出席状況、授業への取り組みなど、4つの評価観点を評価する。				
使用教材	教科書 改訂版 「新編 数学B」 数研出版 副教材 改訂版 3 T R I A L 数学B 数研出版 副教材 改訂版 三訂版ベシックススタイル数学演習ⅠA＋ⅡB 数研出版				

考 査		目 標 ・ ポイント	
1学期	中間		
	期末		
2学期	中間		
	期末		
学年末			

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
数学	数学B	3	3年	普通科 総合(理系)コース	全員

学習目標	数列、ベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
授業計画	1学期 第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 2学期 第3章 数列 第3節 漸化式と数学的帰納法 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 3学期 第2章 空間のベクトル				
学習方法とアドバイス	・予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。 ・授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。 ・復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。				
評価の観点と方法	○評価の観点 【関心・意欲・態度】 社会生活において数学が果たしている役割に興味・関心を示し、事象を数学的に考察しようとしているか。 【数学的な見方や考え方】 さまざまな事象を数学的にとらえ、それらを論理的に追究し、解明しようとしているか。 【数学的な技能】 適切な記号や用語、グラフや図を用いて、論理が展開できているかどうか。 【知識・理解】 基本的な記号・用語・定理などを理解し、それらを使って推論が論理的に展開できるかどうか。 ○評価方法 ・定期考査、小テストなどで、4つの評価観点を評価する。 ・ノート提出、出席状況、授業への取り組みなど、4つの評価観点を評価する。				
使用教材	教科書 「新編 数学B」 数研出版 副教材 3 T R I A L 数学B 数研出版				

考 査		目 標 ・ ポイント	
1学期	中間		
	期末		
2学期	中間		
	期末		
学年末			

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	物理	5	3年	普通科（文理理コース）	選択

学習目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する				
授業計画	1 学期 1 運動とエネルギー (1)平面運動と放物運動 (2)剛体のつりあい (3)運動量の保存 (4)円運動と単振動 (5)気体の性質と分子の運動 2 波 (1)波の伝わり方 2 学期 (2)音波 (3)光波 3 電気と磁気 (1)電場と電位 (2)電流 (3)電流と磁場 (4)電磁誘導と交流 3 学期 4 原子と原子核 (1)電子と光 (2)原子と原子核 5 物理学が築く未来				
学習方法と アドバイス	・ 予習として、教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。 ・ 授業は積極的に取り組み、意見を交わし合い、定期考査に役立つ丁寧なノート作成を心がけること。 ・ 物理基礎と関連する部分が多いので、しっかり復習しておくこと。 ・ 問題は繰り返し解くこと。 ・ 提出物の期限は必ず守ること。				
評価の観点と 方法	「物理」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】物理的な事物・現象に関心や探求心をもち意欲的にそれらを探求できているか。 【思考・判断・表現】物理的な事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、分析的、総合的に考察したりして問題を解決し、科学的に判断できているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、物理的な事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けているか。 【知識・理解】観察、実験などを通して物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書 「高等学校 改訂 物理」 第一学習社 問題集 「改訂 スタディノート 物理」 第一学習社				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	物理	5	3年	普通科（総合理コース）	選択

学習目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する				
授業計画	1 学期 1 運動とエネルギー (1)平面運動と放物運動 (2)剛体のつりあい (3)運動量の保存 (4)円運動と単振動 (5)気体の性質と分子の運動 2 波 (1)波の伝わり方 2 学期 (2)音波 (3)光波 3 電気と磁気 (1)電場と電位 (2)電流 (3)電流と磁場 (4)電磁誘導と交流 3 学期 4 原子と原子核 (1)電子と光 (2)原子と原子核 5 物理学が築く未来				
学習方法と アドバイス	・予習として、教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。 ・授業は積極的に取り組み、意見を交わし合い、定期考査に役立つ丁寧なノート作成を心がけること。 ・物理基礎と関連する部分が多いので、しっかり復習しておくこと。 ・問題は繰り返し解くこと。 ・提出物の期限は必ず守ること。				
評価の観点と 方法	「物理」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】物理的な事物・現象に関心や探求心をもち意欲的にそれらを探求できているか。 【思考・判断・表現】物理的な事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、分析的、総合的に考察したりして問題を解決し、科学的に判断できているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、物理的な事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けているか。 【知識・理解】観察、実験などを通して物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書 「高等学校 改訂 物理」 第一学習社 問題集 「改訂 スタディノート物理」 第一学習社				
考 査	学 習 計 画			反 省	
1 学期中間					
1 学期期末					
2 学期中間					
2 学期期末					
学年末					

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	化学基礎	2	3年	普通科・文理(文)	全員

学習目標	演習と実験を通して、一年次に学習した化学の基本的な概念や原理・法則などの理解を深めるとともに、科学的な見方や考え方を養う。探究活動によって、自ら考え、自ら学ぶ科学的態度を養う。
授業計画	1学期 序章 化学と人間生活 第1編 物質の構成と化学結合 ・第1章 物質の構成 ・第2章 物質の構成粒子 2学期 第1編 物質の構成と化学結合 ・第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化 ・第1章 物質と化学反応式 ・第2章 酸と塩基の反応 3学期 第2編 物質の変化 ・第3章 酸化還元反応 探究活動
学習方法と アドバイス	・ 予習として教科書や資料集に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・ 授業を大切にして積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。 ・ 復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。 ・ 実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。
評価の観点と 方法	「化学基礎」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けているか。 【知識・理解】観察、実験などを通して化学の原理・法則を見いだすとともに、基本的な概念を具体的な性質や反応と結びつけて理解できているか。また、それらを活用して、いくつかの現象が同一の概念で説明できることを見いだし、新たな事象の解釈に応用できるか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 「改訂版 新編 化学基礎」 数研出版 問題集 「改訂版 新編化学基礎 準拠ノート」 数研出版

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	化学	2	3年	普通科（文理理コース）	全員

学習目標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。
授業計画	1学期 第4編 有機化合物 ・第1章 有機化合物の分類と分析 ・第2章 脂肪族炭化水素 ・第3章 アルコールと関連化合物 2学期 第4編 有機化合物 ・第4章 芳香族化合物 第5編 高分子化合物 ・第1章 高分子化合物の性質 ・第2章 天然高分子化合物 3学期 第5編 高分子化合物 ・第3章 合成高分子化合物
学習方法とアドバイス	・予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・授業を大切にして積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。 ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。 ・実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。
評価の観点と方法	「化学」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】自然の事物・現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けているか。 【知識・理解】自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 「改訂版 化学」 数研出版 問題集 「三訂版 リードLightノート化学」 数研出版

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	化学	2	3年	普通科（総合理コース）	全員

学習目標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。
授業計画	1学期 第4編 有機化合物 ・第1章 有機化合物の分類と分析 ・第2章 脂肪族炭化水素 ・第3章 アルコールと関連化合物 2学期 第4編 有機化合物 ・第4章 芳香族化合物 第5編 高分子化合物 ・第1章 高分子化合物の性質 ・第2章 天然高分子化合物 3学期 第5編 高分子化合物 ・第3章 合成高分子化合物
学習方法とアドバイス	・予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・授業を大切にして積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。 ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。 ・実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。
評価の観点と方法	「化学」では以下の4つの観点から評価します。 【関心・意欲・態度】自然の事物・現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けているか。 【知識・理解】自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 「改訂版 化学」 数研出版 問題集 「三訂版 リードL i g h tノート化学」 数研出版

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	生物基礎	2	3年	普通科(文理文系コース)	全員

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心をもち、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を習得する。				
授業計画	1学期 第3章 体内環境と恒常性（続き） 2学期 第4章 植生の多様性と生態系 3学期 第4章 植生の多様性と生態系（続き）				
学習方法とアドバイス	・予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・授業を大切にしながら積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう丁寧にノートを作る。 ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。				
評価の観点と方法	「生物基礎」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに科学的態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】生物や生命現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、生物や生命現象を科学的に探究する技能を身に付けているか。 【知識・理解】生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書 「高等学校 改訂 新生物基礎」 第一学習社 問題集 「標準セミナー 生物基礎」 第一学習社				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	生物基礎	2	3年	普通科(総合文系コース)	全員

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心をもち、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を習得する。				
授業計画	1学期 第3章 体内環境と恒常性(続き) 2学期 第4章 植生の多様性と生態系 3学期 第4章 植生の多様性と生態系(続き)				
学習方法とアドバイス	・予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・授業を大切にしながら積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう丁寧にノートを作る。 ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。				
評価の観点と方法	「生物基礎」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに科学的態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】生物や生命現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、生物や生命現象を科学的に探究する技能を身に付けているか。 【知識・理解】生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書 「高等学校 改訂 新生物基礎」 第一学習社 問題集 「標準セミナー 生物基礎」 第一学習社				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	生物	5	3年	普通科(文理理系コース)	選択

学習目標	生物や生命現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を習得するとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身に付ける。				
授業計画	1学期 第1章 細胞と分子 第2章 代謝 第3章 遺伝情報の発現 2学期 第4章 生殖と発生 第5章 生物の環境応答 第6章 生物群集と生態系 3学期 第7章 生物の進化 第8章 生物の系統				
学習方法と アドバイス	・ 予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・ 授業を大切にしながら積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう丁寧にノートを作る。 ・ 復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。				
評価の観点と 方法	「生物」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに科学的態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】生物や生命現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、生物や生命現象を科学的に探究する技能を身に付けているか。 【知識・理解】生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書 「高等学校 改訂 生物」 第一学習社 問題集 「セミナー 生物」 第一学習社				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
理科	生物	5	3年	普通科(総合理系コース)	選択

学習目標	生物や生命現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を習得するとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身に付ける。				
授業計画	1学期 第1章 細胞と分子 第2章 代謝 第3章 遺伝情報の発現 2学期 第4章 生殖と発生 第5章 生物の環境応答 第6章 生物群集と生態系 3学期 第7章 生物の進化 第8章 生物の系統				
学習方法と アドバイス	・ 予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。 ・ 授業を大切にしながら積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう丁寧にノートを作る。 ・ 復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。				
評価の観点と 方法	「生物」では以下の4つの観点から評価する。 【関心・意欲・態度】生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに科学的態度を身に付けているか。 【思考・判断・表現】生物や生命現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現できているか。 【観察・実験の技能】観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、生物や生命現象を科学的に探究する技能を身に付けているか。 【知識・理解】生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。 以上の観点から、定期考査、授業への取り組みや態度、ノートや課題の提出状況・実験レポートの内容等を総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書 「高等学校 改訂 生物」 第一学習社 問題集 「セミナー 生物」 第一学習社				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教 科 名	科 目	単位数	対象学年	対 象 生 徒	区 分
保健体育	体 育	2	3 年	普 通 科	全 員

学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
授業計画	4月 体づくり運動 5月～7月 体づくり運動 I 期選択 器械運動・ダンス・陸上・ バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道 9月～11月 体育理論 II 期選択 器械運動・ダンス・陸上・ バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道 体づくり運動 12月～3月 体づくり運動 III 期選択 器械運動・ダンス・陸上・ バスケ・ハンド・サッカー・バレー・テニス・卓球・バド・ソフト・剣道
学習方法と アドバイス	選択種目については、教師の指導・助言を受けながら、各自・各グループで以下のような要領で自主的に学習を進める。 ・自分やグループの状態に適した目標の設定をおこなう。 ・その目標を達成するために、具体的な運動の課題を把握する。 ・その運動の課題を解決するために、合理的な練習計画を作成する。 ・計画にもとづいて実行した結果を評価し、つぎの課題や目標の修正に生かす。
評価の観点と 方法	【関心・意欲・態度】・・・種目の特性に関心を持ち、楽しさや喜びが味わえるように進んで取り組んでいるか。個々の役割を自覚しその責任を果たし互いに協力して種目に取り組んでいるか。活動場所などの安全を確かめ、健康・安全に留意して種目に取り組んでいるか。 【思考・判断】・・・種目の問題解決を目指して自ら考え、授業で学んだ知識や技術を活用できるか。 【運動の技能】・・・個人技能、集団技能など各技能のポイントをどのように習得しているか。 【知識・理解】・・・種目の特性や課題・合理的な練習の仕方を理解し、実践に生かそうとしているか。種目のルールや競技・審判の方法を十分理解するとともに、学習の中で効果的に活用することができるか。
使用教材	教科書 最新高等保健体育 大修館書店 副教材 ステップアップ高校スポーツ 大修館書店

	種目（課題設定）	自己評価
1 学期		
2 学期		
3 学期		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
芸術	音楽Ⅲ	2	3年	普通科 総合（文系）	選択

学習目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。グループ活動を通して、相互に評価し、学び合うことを目標とする。
授業計画	－ 1学期 － ○「合唱奏」 ○「西洋音楽史・クラシック音楽の鑑賞」 － 2学期 － ○「グループアンサンブル」 ○「歌舞伎やオペラなどの総合芸術における鑑賞」 － 3学期 － ○「グループ創作」
学習方法と アドバイス	○「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」のそれぞれの内容において、与えられた課題を計画的に取り組む、楽曲等を完成させます。 ○楽曲等の練習に際しては、常に技術の向上を心掛け、自発的な表現の工夫など、創造的な活動を積極的に行うことが大切です。 ○グループ活動では、演奏技能が高められるよう役割分担し、協力して取り組むこと。 ○レポート等の課題は、丁寧に取り組む、期限を守って提出すること。
評価の観点と 方法	「音楽Ⅲ」では以下の4つの観点から評価する。 【音楽への関心・意欲・態度】 音楽の諸活動において興味・関心を持ち意欲的に取り組む態度を身につけている。 【音楽表現の創意工夫】 音楽の諸活動において技術や知識を習得し、それらを臨機応変に思考、判断し表現できる。 【音楽表現の技能】 歌唱や器楽演奏において基本的な技術を身につけた上で、自己の感性を働かせたり、イメージしたりして自分なりに表現できる。また、鑑賞においては感じたことを言語等で表現できる。 【鑑賞の能力】 音楽を形づくっている要素を近くし、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。 以上の観点から、授業への取り組みの姿勢や態度、ノートや学習プリント等の提出状況と内容、楽典などの小テスト、歌唱やギターなどの実技テスト等で総合的に評価する。
使用教材	教科書「Joy of Music」、授業プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価・反省等
1学期	
2学期	
3学期	

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
芸術	美術Ⅲ	2	3年	普通科 総合（文系）	選択

学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
授業計画	—1学期— <絵画> ・絵画Ⅲ —2学期— <デザイン><立体> ・立体造形Ⅲ <鑑賞> ・日本の美術 —3学期— <デザイン> ・卒業制作
学習方法と アドバイス	絵画・デザイン、立体などの制作を通して、ものの見方・とらえ方・描き方や、混色のしかた・用具の使用法等の基本的なことからについて学習し、創造的な作品を制作する。 鑑賞では、ビデオ・スライド・参考作品を観てワークシートを書き、提出する。 各課題は計画的に丁寧に取り組み、期限内に提出すること。
評価の観点と 方法	「美術Ⅲ」では以下の4つの観点から総合的に評価します。 【美術への関心・意欲・態度】 美術や美術文化に関心を持って、主体的に、表現と鑑賞の創造活動に取り組もうとする。 【発想や構想の能力】 感性や想像力を働かせて、創造的な表現の構想を練っている。 【創造的な技能】 創造的な表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫している。 【鑑賞の能力】 美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
使用教材	教科書「美術Ⅲ」（光村図書）、中学で使用した絵の具セット、授業ファイル、授業プリント

考 査	取り組みの状況・自己評価・反省等
1学期	
2学期	
3学期	

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
芸術	書道Ⅲ	2	3年	普通科 総合（文系）	選択

学習目標	○書道の幅広い表現方法や美しさ ○個性豊かな作品づくりに取り組もう。 ○書道に対する関心・興味を深め、表現・鑑賞の力を培おう。
授業計画	－ 1学期 － ○漢字の学習 臨書と創作 － 2学期 － ○漢字仮名交じりの書の創作 ○刻字 － 3学期 － ○鑑賞 ○書論について 随時：硬筆
学習方法と アドバイス	作品づくりを主眼においた授業なので、1つの課題に長い時間をかけるようになります。根気よく作品づくりをしましょう。一人ひとりが異なった課題をすることもあります。独創的な新しい感覚を磨きましょう。
評価の観点と 方法	<授業の取り組み>【書への関心・意欲・態度】 ○書道用具等を事前に準備し、また大切に使用できているか。後片付けもきちんとできているか？ ○真面目に前向きに授業に取り組んでいるか？ ○プリント等への記入や作品のファイリングがきちんとできているか？ <作品による評価>【書表現の構想と工夫】【創造的な表現の技能】【鑑賞の能力】 ○課題（単元）の目標に一致する完成度の高い作品か？ ○努力の認められる作品か？ ○書の美しさやよさを味わっているか？
使用教材	教科書「書Ⅲ」（教育図書）、授業プリント 等

考 査	取り組みの状況・自己評価・反省等
1学期	
2学期	
3学期	

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	2	3年	普通科（情報ビジネスコース）	全員

学習目標	1 英語を通して、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。 2 英語を通して、多様なものの見方や考え方を理解し、自国のこと、諸外国のことを知り、広い視野から国際理解を深める。
授業計画	1学期 Lesson 6 English Textbooks from Around the World Lesson 7 The Hayabusa Project 2学期 Lesson 8 The Origin of Santa Claus Lesson 9 The Only Japanese on the Titanic 3学期 Lesson 10 Japanese Agriculture Is Changing *実際の授業は種々の都合によりこの通り行われないことがある。
学習方法と アドバイス	1 予習として教科書の本文を読み、分からない語句を辞書で調べておく。 2 言語活動を通して内容の理解を深め、積極的に自分の考えや意見を発表する。 3 本文の意味を理解した後に音読を行い、繰り返し英文を書いたり、声に出して読んだりする。 4 新出の文法事項や語句について、参考書の関連箇所ですらに理解を深めるようにする。
評価の観点と 方法	コミュニケーション英語Ⅱでは次の観点から評価をする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、授業に参加することができる。 【外国語表現の能力】 情報や考えなどを、表現の方法を工夫しながら英語で話したり書いたりすることができる。 【外国語理解の能力】 教科書を読んでその内容を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解】 基本的な英文法や単語、文化背景などを理解している。 以上の観点から年5回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 New ONE WORLD CommunicationⅡ 教育出版 副教材 New ONE WORLD CommunicationⅡ Workbook 教育出版 デュアルスコープ総合英語 新訂版 数研出版 ターゲット 1400 旺文社

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	5	3年	普通科（文理文コース）	全員

学習目標	① 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を伸ばす。 ② 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する力を伸ばす。 ③ 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝える力を伸ばす。 ④ 言語や運用についての知識を身に付け、背景にある文化を理解する力を伸ばす。
授業計画	1学期 Unit 1 Lesson 1. Emoji as a Universal “Language” ～ Unit 2 Lesson 10. Water and Living Things 2学期 Unit 3 Lesson 11. The 10,000-Hour Rule ～Lesson 14. Jose Mujica, the World’s “Poorest” President Ever 問題演習 3学期 問題演習 Lesson 15. Understanding the Culture of Dogs
学習方法とアドバイス	① 予習として、教科書を読み、未知の語の意味を推測したり、背景となる知識を活用しながら内容を把握したりする。また、意味のわからない単語の意味を、辞書を使って調べておく。 ② 授業を大切に、主体的に学習に取り組み、授業内容の理解に努める。 ③ 復習やテスト前の学習に役立つように丁寧なノート作りをする。 ④ 宿題や提出物を丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
評価の観点と方法	コミュニケーション英語Ⅲでは、次の観点から評価をする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】英語に関心を持ち、授業に積極的に参加する。予習、辞書を引くこと、音読・朗読が習慣的にできる。 【外国語表現の能力】授業に積極的に参加し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりする。 【外国語理解の能力】教科書を読んでその内容を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解】基本的な英文法、単語、文化背景などを理解している。 以上の観点から年5回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 Power On English Communication Ⅲ 東京書籍 副教材 Power On English Communication Ⅲ Workbook 東京書籍 スランブル英文法・語法 4th Edition 旺文社 英単語ターゲット 1400 旺文社

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	4	3年	普通科（文理理コース）	全員

学習目標	① 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を伸ばす。 ② 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する力を伸ばす。 ③ 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝える力を伸ばす。 ④ 言語や運用についての知識を身に付け、背景にある文化を理解する力を伸ばす。
授業計画	1学期 Unit 1 Lesson 1. Emoji as a Universal “Language” ～ Unit 2 Lesson 10. Water and Living Things 2学期 Unit 3 Lesson 11. The 10,000-Hour Rule ～Lesson 14. Jose Mujica, the World’s “Poorest” President Ever 問題演習 3学期 問題演習 Lesson 15. Understanding the Culture of Dogs
学習方法とアドバイス	① 予習として、教科書を読み、未知の語の意味を推測したり、背景となる知識を活用しながら内容を把握したりする。また、意味のわからない単語の意味を、辞書を使って調べておく。 ② 授業を大切に、主体的に学習に取り組み、授業内容の理解に努める。 ③ 復習やテスト前の学習に役立つように丁寧なノート作りをする。 ④ 宿題や提出物を丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
評価の観点と方法	コミュニケーション英語Ⅲでは、次の観点から評価をする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】英語に関心を持ち、授業に積極的に参加する。予習、辞書を引くこと、音読・朗読が習慣的にできる。 【外国語表現の能力】授業に積極的に参加し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりする。 【外国語理解の能力】教科書を読んでその内容を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解】基本的な英文法、単語、文化背景などを理解している。 以上の観点から年5回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 Power On English Communication Ⅲ 東京書籍 副教材 Power On English Communication Ⅲ Workbook 東京書籍 スランブル英文法・語法 4th Edition 旺文社 英単語ターゲット 1400 旺文社

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	4	3年	普通科(総合文理・文コース)	全員

学習目標	1 英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばし、社会生活において活用できるようにする。 2 英語を通して、多様なものの見方や考え方を理解し、自国のこと、諸外国のことを知り、広い視野から国際理解を深める。
授業計画	1学期 Get Ready 1～6 Lesson 1 Happy Nations Lesson 2 “Gamification”: Games May Save the World Lesson 3 Spider Silk Spun into Violin Strings 2学期 Lesson 4 Can Cellphone Recycling Help African Gorillas? Lesson 5 Gagaku, the Music of the Universe Lesson 6 Etymology: Wonders of Words 3学期 Lesson 7 A Lesson from Steve Job’s Life *実際の授業は種々の都合によりこの通り行われないことがある。
学習方法とアドバイス	1 予習として教科書の本文を読み、分からない語句を辞書で調べておく。 2 言語活動を通して内容の理解を深め、積極的に自分の考えや意見を発表する。 3 本文の意味を理解した後に音読を行い、繰り返し英文を書いたり、声に出して読んだりする。 4 新出の文法事項や語句について、参考書の関連箇所ですらに理解を深めるようにする。
評価の観点と方法	コミュニケーション英語Ⅲでは次の観点から評価をする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、授業に参加することができる。 【外国語表現の能力】 情報や考えなどを、表現の方法を工夫しながら英語で話したり書いたりすることができる。 【外国語理解の能力】 教科書を読んでその内容を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解】 基本的な英文法や単語、文化背景などを理解している。 以上の観点から年5回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 Vivid English Communication Ⅲ 第一学習社 副教材 Vivid English Communication Ⅲ Workbook 第一学習社 デュアルスコープ総合英語 新訂版 数研出版 ターゲット 1400 旺文社

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	英語表現Ⅱ	2	3年	普通科（文理コース）	全員

学習目標	① 英語表現Ⅰで学習したものをより発展させた文法事項や表現方法に関する知識を身につける。 ② 情報や考え・意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える力を伸ばす。 ③ これらの知識や能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
授業計画	1学期 Lesson 12【関係詞の非制限用法/複合関係詞】～Lesson16【時間に関する表現】 2学期 Lesson17【無生物主語構文/名詞的表現】～ Lesson21【群動詞/群前置詞】 3学期 Part2 パラグラフを書いてみよう *実際の授業は種々の都合により、この通り行われないことがある。
学習方法とアドバイス	文や文型、文法事項、語や連語の知識を整理する。（復習が大切） それらの知識を活用して、中級レベルの英作文に取り組む。（予習が大切） 基本的な表現を口頭で再生しスピーキングの能力を高める。（復習が大切） 場面やテーマに応じて相手に伝わりやすい表現ができるように、簡単な自由英作文にも取り組む。（予習が大切）
評価の観点と方法	英語表現Ⅱでは次の観点から評価をする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】英語に関心を持ち、授業に積極的に参加する。予習・復習や辞書を引くことが習慣的にできる。 【外国語表現の能力】授業に積極的に参加し、情報や考えなどを、英語で話したり書いたりする。 【外国語理解の能力】教科書の説明やクラスメートの発表を読んだり、聞いたりしてその内容を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解】基礎的な英文法、単語、文の組立て方、ディスカッションやディベートのやり方などを理解している。 以上の観点から年5回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト等を総合的に判断して評価する。
使用教材	教科書 MY WAY English Expression II New Edition 三省堂 副教材 MY WAY English Expression II New Edition WORKBOOK 三省堂 チャート式 デュアルスコープ総合英語 数研出版 セレクトプラス英語構文76 文英堂

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
外国語	英語表現Ⅱ	2	3年	普通科（総合文・実務コース）	全員

学習目標	① 基礎的な文法事項に関する知識を身につける。 ② 情報や考えなどを、場面や目的に応じて英語で書くための基礎的な能力を伸ばす。 ③ この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。				
授業計画	1学期 New One World Expression II Revised Edition Lesson 11~16 【形式上の主語 it、形式上の目的語 it】 【原級や比較級を用いて表す最上級、絶対比較級】 【受け身形/完了形の分詞構文、独立分詞構文】 【前置詞＋関係代名詞、複合関係詞、関係詞の非制限用法】 【仮定法過去、仮定法過去完了、as if を用いた仮定法、if 節以外の仮定法表現】 【強調構文、倒置構文、無生物主語構文】 2学期 New One World Expression II Revised Edition 1~10 【依頼・許可・断りを表す表現】 【助言・忠告を示す表現】 【苦情・謝罪を示す表現】 【原因・理由・根拠を示す表現】 【目的を示す表現】 祝福・喜び・感謝を示す表現】 【希望・期待を示す表現】 【予定、意図を示す表現】 【推察、確信を示す表現】 【主張、賛成、反対を示す表現】 3学期 New One World Expression II Revised Edition Program 11~15 【場所、方向を示す表現】 【数量、頻度、割合を示す表現】 【比較、対照をあらわす表現】 【程度、結果を示す表現】 【列挙、時間的順序を示す表現】 * 状況に応じて LESSON をピックアップしながら進めていく。				
学習方法とアドバイス	・文や文型、文法事項、語や連語の知識を整理する。（復習が大切） ・それらの知識を活用して、初級レベルの英作文に取り組む。（予習が大切） ・基本的な表現を口頭で再生しスピーキングの能力を高める。（復習が大切） ・様々な場面に相応しい表現ができるように、簡単な自由英作文にも取り組む。（予習が大切）				
評価の観点と方法	英語表現Ⅱでは次の観点から評価をする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 英語に関心を持ち、授業に積極的に参加する。予習・復習や辞書を引くことが習慣的にできる。 【外国語表現の能力】 授業に積極的に参加し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりする。 【外国語理解の能力】 教科書の説明を読んでその内容を理解することができる。 【言語や文化についての知識・理解】 基本的な英文法、単語、文化背景などを理解している。 以上の観点から年5回の定期考査、授業への取り組みと態度、ノートや課題等の提出状況、単語テストなどの小テスト等を総合的に判断して評価する。				
使用教材	教科書 New ONE WORLD Expressions II Revised Edition 教育出版 副教材 New ONE WORLD Expressions II Revised Edition WORKBOOK 教育出版 チャート式 デュアルスコープ総合英語 数研出版				

考 査	学 習 計 画	反 省
1学期中間		
1学期期末		
2学期中間		
2学期期末		
学年末		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
商業	課題研究	3	3年	普通科（情報ビジネスコース）	全員

学習目標	商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、統合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。	
授業計画	－ 1 学期－ 学習課題の設定 （会計分野、ビジネス情報分野、マーケティング分野） 調査・研究・作成など ＜コースの特色を生かした、自己目標の設定と研究＞ － 2 学期－ 調査・研究・作成など ＜コースの特色を生かした、進路選択と進路研究＞ － 3 学期－ 発表・討論 ＜研究成果の発表と自己分析＞	【取得目標検定】全商3種目以上合格 6月 全商珠算・電卓実務検定1級 全商簿記検定1級 原価計算 全商ビジネス文書実務検定1級 7月 全商ビジネスコミュニケーション検定 9月 全商情報処理検定1級 11月 全商ビジネス文書実務検定1級 1月 全商簿記検定1級 会計 全商情報処理検定1級 2月 全商商業経済検定1級
学習方法と アドバイス	① 商業に関する調査・研究・実験、作品制作、現場実習、資格取得などの課題を個人またはグループで設定し、よりよく課題を解決するための知識と技術を習得する。 ② 自ら学び、自ら考え、主体的に判断するなど課題の解決を図る学習を通して得た成果を、発表し討論する。	
評価の観点 と方法	【関心・意欲・態度】 ビジネスの諸活動について関心を持ち、改善・向上を目指して主体的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ビジネスの諸活動に思考を深め、基礎的・基本的な知識を基に表現する能力を身につけているか。 【技能】 商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、ビジネスの意義や役割を理解しているか。 以上の観点から、定期考査、提出物、授業における活動等を総合的に評価する。	
使用教材	自己選択課題に関する参考文献	

	テーマ（課題設定）	自己評価
1 学期		
2 学期		
3 学期		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
商業	ビジネス実務	2	3年	普通科（情報ビジネスコース）	全員

学習目標	ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や、業務の合理化の重要性を理解させる。さらに、ビジネスマナーを身につけさせ、適切にコミュニケーションを図ることにより、ビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度を育てる。				
授業計画	－ 1 学期－ 第 1 章 企業の組織と人間関係 1. 企業の組織と意思決定 2. 人間関係と仕事 第 2 章 ビジネスマナー 1. 挨拶、表情と身のこなし 2. 名刺交換と紹介、訪問・来客の応対 3. 電話の応対、席次のマナー、交際のマナー 第 3 章 ビジネスコミュニケーション 1. ビジネスコミュニケーションの基本 2. ディスカッション － 2 学期－ 3. プレゼンテーション 4. 交渉と苦情対応 第 4 章 オフィス業務 1. 業務の進行方法 2. スケジュール管理 3. オフィス環境の整備 4. 資料管理の方法 5. 会議 － 3 学期－ 第 5 章 税の申告と納付 1. 企業と税 2. 法人税、消費税				
学習方法とアドバイス	7 月に実施される全商ビジネスコミュニケーション検定試験や秘書検定の合格をめざし、将来の社会人として望ましい心構えや組織の一員として働くためのルールについて学習をすすめていきます。内容を学習した後、節ごとに意欲と関心を持ってロールプレイングを通して実践していきます。				
評価の観点と方法	【関心・意欲・態度】 ビジネスの諸活動について関心を持ち、改善・向上を目指して主体的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ビジネスの諸活動に思考を深め、基礎的・基本的な知識を基に表現する能力を身につけているか。 【技能】 商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解しているか。 以上の観点から、定期考査、提出物、授業における活動等を総合的に評価する。				
使用教材	教科書：ビジネス実務（実教出版） 2 年生から継続使用 副教材：				

考 査	自 己 評 価
1 学期中間	
1 学期期末	
2 学期中間	
2 学期期末	
学 年 末	

検 定 記 入 欄	
検定の名称	
受験する級	
試 験 日	
申 し 込 み	
結 果	

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
商業	マーケティング	2	3年	普通科（情報ビジネスコース）	全員

学習目標	マーケティングに関する体系的な知識と技術を習得させる。 マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を育てる。				
授業計画	－ 1 学期－ 第 1 章 現代市場とマーケティング ① 現代市場の特徴 ② マーケティングの概要 第 2 章 市場調査 ① 市場調査の意味 ② 市場調査の手順 ③ 実態調査の方法 ④ 市場調査の実習 第 3 章 消費者行動 ① 消費者行動と購買 ② 購買意志決定過程 ③ 製品のライフサイクルと普及 第 4 章 販売計画 ① 販売計画と販売予測 ② 販売計画の立案・実施・統制 － 2 学期－ 第 5 章 製品計画 ① 製品計画の概要 ② 製品ミックスと製品政策 第 6 章 仕入計画と商品管理 ① 仕入計画 ② 商品管理 第 7 章 販売価格 ① 販売価格の決定 ② 価格戦略 第 8 章 販売経路 ① 販売経路の設定 ② 販売経路の強化 － 第 3 学期－ 1 級総合問題 〈 2 月上旬 商業経済検定 1 級受験〉				
学習方法と アドバイス	◇学習方法◇ 授業で基礎的な知識と技術を習得した上で、全商商業経済検定 1 級取得をめざします。 ◇アドバイス◇ 集中して授業に取り組み、基礎的な力をしっかり身につけることが大切です。また、ニュースや新聞などにより、経済活動の動向に興味を持つことが大切です。				
評価の観点 と方法	【関心・意欲・態度】 ビジネスの諸活動について関心を持ち、改善・向上を目指して主体的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ビジネスの諸活動に思考を深め、基礎的・基本的な知識を基に表現する能力を身につけているか。 【技能】 商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、ビジネスの意義や役割を理解しているか。 以上の観点から、定期考査、提出物、授業における活動等を総合的に評価する。				
使用教材	教科書 「マーケティング」（実教出版） 問題集 全商商業経済検定模擬試験問題集 1・2 級 マーケティング（実教出版）				

	テーマ（課題設定）	自己評価
1 学期		
2 学期		
3 学期		

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
商業	原価計算	2	3年	普通科（情報ビジネスコース）	全員

学習目標	製造業における原価計算に関する知識と技術を習得させ、原価の概念について理解させる。原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を育てる。				
授業計画	－ 1 学期－ 第 1 編 原価計算の基礎 第 1 章 原価と原価計算 第 2 章 原価計算のあらまし 第 3 章 工業簿記 第 2 編 原価の費目別計算 第 4 章 材料費の計算と記帳 第 5 章 労務費の計算と記帳 第 6 章 経費の計算と記帳 第 3 編 原価の部門別計算と製品別計算 第 7 章 個別原価計算 第 8 章 部門別個別原価計算 第 9 章 総合原価計算 第 10 章 工程別総合原価計算 第 11 章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理 － 2 学期－ 第 4 編 製品の完成・販売と決算 第 12 章 製品の完成と販売 第 13 章 決算と本社・工場間の取引 第 5 編 標準原価計算の基礎 第 14 章 標準原価計算（その 1） 第 15 章 標準原価計算（その 2） 第 6 編 直接原価計算の基礎 第 16 章 直接原価計算（その 1） 第 17 章 直接原価計算（その 2） － 3 学期－ 1 級総合問題 〈 1 月下旬 簿記検定 1 級受験〉				
学習方法とアドバイス	全商簿記実務検定 1 級取得を目標に学習を進めていきます。毎回の授業を真剣に取り組むことが大切です。また、学習内容がより高度になっていくので、わからないところは必ず質問をして、その内容を理解できるようにしましょう。継続的な努力が必要な科目です。				
評価の観点と方法	【関心・意欲・態度】 ビジネスの諸活動について関心を持ち、改善・向上を目指して主体的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ビジネスの諸活動に思考を深め、基礎的・基本的な知識を基に表現する能力を身につけているか。 【技能】 商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解しているか。以上の観点から、定期考査、提出物、授業における活動等を総合的に評価する。				
使用教材	教科書：原価計算（実教出版） 副教材：完全段階式 標準検定簿記問題集全商 1 級原価計算（東京法令出版） 全商簿記実務検定模擬試験問題集 1 級原価計算（実教出版）				

考 査	自 己 評 価
1 学期中間	
1 学期期末	
2 学期中間	
2 学期期末	
学 年 末	

検 定 記 入 欄	
検定の名称	
受験する級	
試 験 日	
申 し 込 み	
結 果	

教科名	科目	単位数	対象学年	対象生徒	区分
商業	情報処理	2	3年	普通科（情報ビジネスコース）	全員

学習目標	コンピュータの操作方法やモラル、セキュリティについて理解する。Word・Excel・データベースなどのソフトウェアやインターネットを活用し、必要な情報を適切に収集、処理し活用できる能力や技術を身につける。				
授業計画	－1学期－ 表計算ソフトウェアの活用に関する復習 3章 ビジネスの計算 1節 金融に関する計算 2節 証券投資に関する計算 －2学期－ 4章 データベースの活用 1節 ビジネス情報とデータベース 2節 データベースの利用 3節 報告書の作成 5章 情報通信ネットワーク 1節 情報通信ネットワークの概要 2節 情報通信ネットワークの利用 3節 報告書の作成 －3学期－ 6章 情報化社会のセキュリティとモラル 1節 情報化社会の問題点とその対応				
学習方法とアドバイス	◇学習方法◇ 全商情報処理検定1級取得を目標に学習をすすめますので、パソコン教室においての実習が中心となります。検定終了後は、より高度な知識と技術の習得を目標に学習を進め、ビジネス文書の作成やデータの管理ができるようにしていきます。 ◇アドバイス◇ 指導者の説明をよく聞き、わからない点については積極的に質問をすることが大切です。いかに集中して取り組むかが鍵となる教科なので気を抜かず学習を進めてください。 実習が中心となる科目なので欠席をせず授業を大事にし、一所懸命取り組むことが大切です。				
評価の観点と方法	【関心・意欲・態度】 ビジネスの諸活動について関心を持ち、改善・向上を目指して主体的に取り組んでいるか。 【思考・判断・表現】 ビジネスの諸活動に思考を深め、基礎的・基本的な知識を基に表現する能力を身につけているか。 【技能】 商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、その技術を適切に活用しているか。 【知識・理解】 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの意義や役割を理解しているか。 以上の観点から、定期考査、提出物、授業における活動等を総合的に評価する。				
使用教材	教科書：最新情報処理（実教出版） 2年生から継続使用 副教材：全商情報処理検定模擬試験問題集1級（実教出版）				

考 査	自 己 評 価
1学期中間	
1学期期末	
2学期中間	
2学期期末	
学 年 末	

検 定 記 入 欄	
検定の名称	
受験する級	
試 験 日	
申 し 込 み	
結 果	

3年組番	氏名
------	----